

営農だより 野菜版 6号

JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
2022年(令和4年)6月20日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう!!

ナスの管理

～水不足・肥料切れに注意しましょう!!
また、病害虫の早期発見を心掛けましょう!!～

1. 灌水

梅雨明け後(例年だと東海地方は7月中旬)の**高温と乾燥は、ナスにとって好ましくありません**。敷きワラなどをして地温の上昇と畝の乾きを和らげるとともに、乾燥した時には畝間に水をたっぷり与えます。畝間灌水は夕方に行い、翌朝には水が畝間に溜まっていない程度にします。

2. 追肥

定植後約3週間後に最初の追肥を行った後、その後も3週間おきに追肥をします。NK化成2号を1a当たり2kg程度追肥します。

NK化成2号：税込み 3,190円(20kg)

3. 草勢の判断方法

中花・短花柱花の場合、注意が必要です!!

柱頭は上に出ているのが**正常(長花柱花)**です。花は大きく茎も太くなり、葉は上向きで色ツヤが良くなります。**中花・短花柱花の場合、花が貧弱か花の上の展開葉が少なくなります**。栄養不足や日照不足、高温などで草勢が弱まった時に、短花柱花が多くなり落花が増えます。**化成肥料の追肥により対応して下さい**。

4. 更新剪定 ※剪定を行うには時期が早いです管理方法と併せて紹介します。

真夏には暑さと乾燥で品質が低下しがちです。そこで、枝を切り戻して新しい枝を出させると、秋ナスを収穫することができます。各主枝を強い芽が残るように3分の1から2分の1の長さに切り戻します。

更新剪定は7月中旬～8月上旬に行い(時期が遅くなればなるほど緩く切り戻し)、追肥と灌水を十分施すことで枝が更新されます。剪定後、半月ほどで力のある花が咲き、1ヶ月後には品質のよい秋ナスの収穫が始まります。株のまわりに、スコップを入れて根切りすると新根が早く出て、側枝がよく発生します。

※剪定後は追肥を行います。乾燥防止のため、刈草や稲ワラも足すとよいでしょう。

5. 防除

害虫はアブラムシ、ダニ類、アザミウマ類などに注意し、**早期に発見して薬剤を散布しましょう**。病気ではうどんこ病等に注意が必要して下さい。

アブラムシ：ナスの茎頂部付近の葉や中位・下位の葉などに寄生して加害します。**吸汁された部分は変色し、間接的な影響として、すす病菌が繁殖したり、モザイク病などのウイルス病を媒介したりします。**

ダニ類：葉や茎、果実を吸汁・寄生・食害等します。葉の**色素が抜けて白っぽくなる、葉がねじれて奇形になる**、加害部分が褐色に変化し被害が広がると株全体が枯れあがる等、様々な被害に注意が必要です。

アザミウマ類：葉脈に沿って吸汁し、吸汁された部分は**小さな白い斑点が残ります**。食害が進むと葉表面が光沢を帯び、**小さな黒い点状の汚れが目立つ**こともあります。最終的には葉が褐変して萎れてしまいます。

うどんこ病：白いカビが生え、次第に広がり色が濃くなります。最盛期は葉全体が小麦粉をふりかけたように真っ白になります。防除時期は、よく発生する7月～8月頃が目安になります。しかし、条件が揃えば発生するため、**症状を発見した場合はすぐに防除**をして下さい。

青枯病：土壌中の細菌が、水を媒介にして根の傷から侵入します。梅雨明けから夏にかけて、水はけの悪い場所で多く発生します。病原菌は腐敗した根とともに土中に残り、翌年増殖して再び健全な植物に伝染します。**青枯病に効く薬剤は無いので発病株は、根をなるべく残さないように株ごと抜き取って焼却処分**します。使用した支柱などの道具もよく洗って、天日で乾かしておきましょう。

【防除例】

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数	価格(税込)	毒劇物
モスピラン顆粒水溶剤	アブラムシ類 コナジラミ類	4,000倍	10~30ℓ	前日	3回以内	1,750円 (100g)	●
コテツフロアブル	ハダニ類 チャノホコリダニ	2,000倍	10~30ℓ	前日	4回以内	3,080円 (100cc)	●
ディアナSC	アザミウマ類	2,500~ 5,000倍	10~30ℓ	前日	2回以内	3,120円 (100ml)	
ダコニール1000	うどんこ病	1,000倍	10~30ℓ	前日	4回以内	980円 (250cc)	

●は毒劇物の為、購入する際には印鑑(認印)・身分証明書を持参して下さい。

ニンジンの管理

～春まきの管理方法を紹介します。初夏まき、夏まきの作型も管理方法は一緒なので、栽培の際は参考にしてみてください！！

1. 間引き

発芽後50日間（本葉7枚程度）くらいで、根長がほぼ決定されます。この時期は特に乾燥と肥料不足に注意して、適時間引きを行い、スムーズに生育させることが大切。本葉4～6枚ごろの太り始める前が、一生の中で一番重要な時期です。

【間引きのポイント】

間引きの時、土が乾いている場合は、**あらかじめ水やりをして土を湿らせてから間引く**と作業がしやすくなります。同時に、**必ず雑草も抜き取っておきましょう！！**

- ①間引き1回目 本葉2～3枚 ⇒ 株間2～3cm程度に間引く。
- ②間引き2回目 本葉5～6枚 ⇒ 最終株間6～10cm程度に間引く。
- ③間引き後、畝の表面を軽く中耕し土寄せする。（本葉7枚以降は行わない。）
注意：露出部に土寄せをするが、付け根は埋めないようにする。

☆間引き菜☆

ニンジンの葉にはビタミンやカルシウムが豊富です。間引きした葉は若くて柔らかいので、油炒めやおひたしなどの料理に利用できます。

2. 追肥

2回目の間引きの時期にNK化成2号を1a当たり4kg施肥します。肥料と土をよく混ぜながら軽く中耕して、株元に土寄せするといいでしょ。

3. 収穫

- ・着色適温：16～20℃（13℃以下では着色阻害。）
- ・肥大適温：18～21℃（3℃以下では肥大しない。）

間引き以降、特に難しい栽培管理は不要で、生育後半は水やりや追肥の必要もありません。**ニンジンが太ってからの余分な追肥は厳禁**です。

また、雨の多い年には加湿になり過ぎて根割れが生じる恐れがありますので、畑の排水対策を行い適度な湿度を保つように心掛けましょう。

4. 生理障害と病害虫対策

裂根：芯部（木部）の肥大に肉部（師部）の肥大が追いつかないために生じます。根の初期生育が不良で組織が老化した場合、収穫前の急激に肥大する環境下で発生します。保水と排水のよい畑を選び、有機質を多く施します。**追肥は早めに行い、生育後半の急激な肥効は避けて下さい。**

岐根（又根）：主根の直下に土塊や多量の未熟有機質、化学肥料が残っていると発生します。ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウが主根を侵したり、ガス害などの原因になったりします。障害が多い場合は、次回、**土づくりと深耕をしっかりと行いましょう。**堆肥などの有機質の施用は、播種の1～2ヶ月前に行い、よく分解しておきます。

軟腐病：根部のみに発生します。初め根部に水浸状の染みが現れ、側根着生部の溝に沿って横筋状に発生するものが多いです。病斑部は徐々に拡大して、円形ないし不整形の斑点となります。地際部に近い病斑は大型のものが多いです。**25～30℃の降雨が多い時期に発病するので、その前にスターナ水和剤等を予防散布**して下さい。

キアゲハ：幼虫が葉を食害します。老齢幼虫は大きく、食べる量が非常に多いため、葉を丸坊主にする場合があります。大発生することはまれで、幼虫が大きくよく目立つので、家庭菜園では捕殺するのが最も手っ取り早いです。発生が多い場合は**マラソン乳剤などを散布**して下さい。

ネコブセンチュウ：生育が悪く葉が黄色くなり、天気の良い日には葉がしおれます。**発生すると根にコブがたくさんでき、ヒゲ根が多くなります。**被害が多い場合、次回は播種前にネマトリンエース粒剤を土壌混和して下さい。

【防除例】

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数	価格(税込)	毒劇物
スターナ水和剤	軟腐病	1,000倍	10～30ℓ	7日前	3回以内	1,090円 (100g)	
マラソン乳剤	キアゲハ アブラムシ類	2,000～ 3,000倍	10～30ℓ	14日前	4回以内	320円 (100cc)	
ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ		2kg / 1a		播種前に1回	1,380円 (2kg)	